



7/1・2 女優高橋恵子さん故郷標茶でTV収録

北海道新聞朝刊生活面で人気コーナーの女性の投稿欄「いずみ」のテレビ番組化に向けて、女優高橋恵子さんの朗読シーンの収録が、町内各所で行われました。9月から週1回、北海道テレビ放送（HTB）で「いずみ～北海道暮らしの詩」としてテレビ番組が始まりますので、ぜひご覧ください。



6/11 人権教室で思いやりの大切さ学ぶ

釧路人権擁護委員協議会（小笠原寛会長）主催の子ども人権教室が沼幌小学校で開かれました。生徒らは人権啓発のアニメ「プレゼント」を見ながら、いじめを無くすにはどうすべきか話し合いました。



7/1 実業団選手から走るコツを学びました

毎年本町で合宿されている天満屋、九電工、大塚製菓の陸上部の皆さんが講師を務める、「さわやかランニング教室」（町教育委員会主催）が標茶高校グラウンドで開催されました。この日は小学生から大人まで約90人が参加し、ウォーミングアップ法やトレーニング法などを学びました。教室の最後には選手たちへの質問タイムが設けられ、子どもたちは「毎日どのくらい走っているか」「どうしたら早く走れるか」などの質問をしていました。



6/20 米国で日本文化の素晴らしさをPR

ライオンズクラブ国際協会の青少年交換プログラムで標茶ライオンズクラブ（木下裕幸会長）は、標茶高校3年の須崎環奈さんを派遣することとなり、報告に須崎さんと木下会長、同クラブの担当委員の小野寺一史さんが役場を訪れました。須崎さんは7月17日から8月末までの約40日間、アメリカウイスコンシン州でホームステイや各国の青少年とのキャンプに参加します。



6/12～23 天然素材クレヨンのアート展開催

天然素材を使った手作りクレヨン工房「Tuna-Kai」と札幌市の児童デイサービス「ペンギンアート」による絵画展「形や色にとらわれないクレヨンの世界展」が「月の森」（旧中虹別小学校）で行われました。同工房で自然の草木などからつくられたクレヨンを使ってペンギンアートに通う自閉症などの障がいをもつ子どもたちが描いた作品が18点展示されました。最終日にはリクオのライブも行われました。



6/23 空の玄関口をきれいな花でいっぱい

釧路町村会（会長・棚野孝夫白糠町長）は地域づくり広域プロジェクトの一環として道道釧路空港線の中央分離帯の植樹帯に花の苗を植えました。釧路を訪れた旅行者を温かく迎えることを目的に実施しています。管内市町村長をはじめ関係者、標茶高校の生徒、住民など約150人が参加して、同校で育てられた花の苗2400株を色とりどりに植えられました。

## ありがとうございます

6/12



北雄組（尾崎幸晴社長）の皆さんが、駒ヶ丘公園内のあずまの屋根裏材の補修と同公園と町有地内の枯れ木の撤去作業をしてくださいました。

6/21



標茶町自動車整備協会（菊地茂男会長）の皆さんが地域貢献活動として、町有車両の特別点検をしてくださいました。

6/23



今道東建設工業（弟子屈町・今誠代表取締役）とクニオカ工業（弟子屈町・同代表取締役）が虹別小学校に防犯ブザーを寄贈してくださいました。この日は今道東建設工業の坂本大介工事係長とクニオカ工業の西塚英晃工事課長補佐が小学校を訪れ、児童会長の林真奈さん（6年）と同副会長の小泉さくらさん（5年）に防犯ブザーが手渡されました。

6/25



クニオカ・今道東建設工業経常建設共同企業体（弟子屈町・今誠代表取締役）の皆さんが町道月山1線の路面整備をしてくださいました。6月中旬の雨により表面の砂利が流されている区間を重機によりきれいにならしていただきました。

## 活躍が期待されます

6/20



北海道糸東会清澄館標茶スポーツ少年団（藤原直輝団長）の渡辺穂乃香さん（標茶小4年）が第30回記念カナダ杯争奪空手道選手権大会兼第17回釧路地区空手道選手権大会、小学4年女子個人形の部で優勝し、その報告に役場を訪れました。渡辺さんは「全国大会ではベスト8を目指したい」と意気込みを見せました。

7/7



7月20日、21日の両日、網走市内で開催される北海道小学生陸上競技大会に出場する標茶陸上スポーツ少年団のメンバーが、その報告に役場を訪れました。出場する種目はソフトボール投、砲丸投、走高跳、走幅跳、100m、800m、1500m走、リレーなどで、小学4～6年の男女16人です。キャプテンの松家唯さん（磯分内小6年）は「決勝まで残って皆で協力して頑張りたい」と大会での意気込みを見せました。



6/26

### 日本と東ティモールを結ぶ架け橋を

国際協力機構の青年海外協力隊として東ティモールに派遣される齋藤孔明さんが、その報告に役場を訪れました。齋藤さんは本町出身で、磯分内中学校などで体育課教諭として勤務していました。6月30日に離日し、任期は2年間です。同国の高校で体育の授業のほか、スポーツ活動の指導、教員への授業や指導計画の助言などを行います。齋藤さんは「派遣先では日本の教育を実践するほか、伝統文化や食などを伝えたい」と抱負を語りました。